

10月は、町の中の植物の旬(しゅん)や実りの豊かさを感じることができました。
 キンモクセイの花の香り、カラスウリの赤い色、柿の実、ザクロの実、サツマイモ、米、
 どんぐり、ハナズキの実、ヤマボウシの実、イヌツゲの実、お茶の実に椿の実……。
 特に私は、あるお宅のキンモクセイの大木に感激しました。散歩の途中、道端が
 オレンジ色になっているのが見えて行ってみると…。奥には一面オレンジ色が広がっていました。
 キンモクセイの花が、あんなにもたくさん散っているのを見たことはありませんでした。
 そして、自然は、時間と共に、いつの間にか変化して、今は落ち葉の季節。子どもたちと存分に楽しめ
 そうです。

あたらしい おともたち

10月から、満2歳の子もたちが3名入園し、お母さんと離れて、日ごとに慣れていく様子に感じています。
 このことは、意欲につながります。
 今のは、自分で歩く・お弁当をすすんで食べる
 この二つのことを大切にしています。

歩くことについては、道端の石や穴、葉、門扉に興味があるため、立ち止まることが多く、ゆっくりゆっくり歩く子もいれば、お兄さんお姉さんに付いて、どんどん歩いたり走ったりしなから、見よう見まねで、同じことをする子が女子きな子もいます。

食べることにしても、一人ひとり様子が全く違ってきます。集中して、黙々と食べ、あっというまに食べ終わる子。ス〜3分食べると何だかそわそわし始めて、遊び出そうとする子もいます。「食べるの大好き！」で自分で残さず食べ終え、お弁当が「空っぽ」になると、いい気持ちなのです。

いい気分で片付けて、午後遊びを始まります。片付けは、今は保育者が一緒にやりながら、自分で片付けるものなのだから、ということや、その片付け方を教えています。

外遊びの最中に、ふとお母さんが恋しくなって涙が出ることもあるのです。その時ゴミ収集車が現れたり、風が吹いて木の葉が目や前を駆け抜けていったりすると、にっこり笑顔になって、泣き止みます。外の様々な出来事は、特別なことではないのです。子どもにとって、魅力的な、刺激的なことなのです。

そして、泣いている子がいると、ひとつ年上のお兄さん、お姉さんの中には、「ごはん食べたら、ママ来るよ。」と話しかけたり、黙って、自分の摘んだ草を手渡したりする子もいます。心配してくれているのです。そうかと思えば、新しいお友達のおっぱいちゃんやさしく突っついて、にっこり笑うと「小さいね。」なんて言う子もいました。自分より幼い子がいるだけで、いつもと様子が変わるのが不思議です。一人一人の存在が、互いの刺激になっています。

家の外のルール

外を歩き、公園で遊んでいると、様々な看板や標識を目にします。また、「よそのお家だから、へしてはいいよ。」と声をかけることも度々あります。時には、公園の一角に



このようなものが置いてあることも。

毎日の活動の中で、見たり、聞いたりすることなので、子どもたちは、いくつかの看板や標識等のメッセージ(意味)を覚えてしまいました。でも、覚えること、知っていることが大事なのではなく、ルールやメッセージを理解して適切な行動のとれる人になることが大事。外で過ごす(歩く、遊ぶ…)ことは、このような点でも、子どもにとって必要なことだと考えます。

絵本・手遊び

毎日、帰る前の短い時間ですが、全員が集まって、絵本を見たり、手遊びをしたりします。この短い時間の中でも、子どもの様々な思いが見えてきて個性豊かななあ…と思います。

- ☺ 片付けが済み、集まる時になると、慌てて本を選んで保育者に渡りに来る。
 だれかが始めたこの本のリクエスト。徐々にリクエストする子が増え、本がぐんぐん積み重なり、全て読めないこともあるのです。でも、子どもは文句を言いません。リクエストすれば、それでもいいようです。
- ☺ 絵本を見ていると、思わず立ちあがり、絵本の目の前に来てしまう子。それを見て、「みえな〜い！」と叫ぶ子。
- ☺ みんなで見ている本ではなく、自分のお気に入りの本を手元に置いて、一所懸命見ている。(絵本の時間だということは分かっているようです。)
- ☺ できても、できなくても、手指を動かして手遊びを喜ぶ子。対照的に、じ〜と見ているだけの子。教えられたものとアレンジして楽しむ子もいます。